

なごしこ



六月号

147号

1170

『時は金なり』

六月十日は時の記念日です。

皆さん！ 時間を正しく守りませう

起る時・勉強をする時・御飯の時

寝る時。など時間をきめて致しませう。

二

ネ

ツ

ノ

ツ

ツ

リ

カ

タ

ダイヤモンド

びやうき

みやがきます

● びやウキ

國井昭夫

アサ、オキウトシマスト。アタマおともだちのかず子さんもしり  
 ガイタイノデ、オトウサンニ。ア、んも、おたふく風になって學校を  
 タマガイタイト、イヒマスト。オ、さんでねます。私も火よう日に  
 トウサンが、私ノオデコニキラヤ、たまがいたくて、おひるから學  
 テ、ネツガアルカラネテイナサイ。をやすみましたが、おくすり  
 ト、イヒマシタ。んでねてぬましたり、すぐなほ

私ハカゼヲヒイタノデス。ソノ時、ましたか、あくる日は學校へ  
 ハカゼヒキガハヤツテ學校モヤマン、きました。私は、かず子

んど、しげちゃんをおみまいにいかう  
とおもつてゐます。

◎ビバキ

かがやバジメ

ボクノウキハミンナジバキデス。  
時々オナカヲワルクシタリ、カゼヲ  
ヒイタリシマスガ、スゲオホリマス。  
ボクモスコシオナカヲワルクシテ  
キマスガ、オクスリヲノムト、スゲヨ  
クナルデセウ。  
オモヒマス。

ひらのまさ

私がびやうきになつた時、おかあさ  
はしんばいなさいました。そし

学校をやすみなさいとおつしやい  
ました。その日は、まだうくわいの  
いしよを出す日でした。まへの  
にかいたのがあつたからよかたねと  
おつしやつて、おかあさんはかきかた  
をもつて、いつて下さいました。

あくるあきは、びやうきもなほつて、  
ばんきでいました。

をばり。

三年生の

綴方

鯉のぼり

浅沼庫雄

この間、鯉のぼりで、鯉の中へ私が入り  
まゝ、はらいもうとが口のぶらぶらへ  
まゝ、はらいの方から出ようと、はら  
もう一人のいもうとが尾の方をおさ  
へまゝ。

私のうちにはでんとうが二十二年ま  
ます。

六月一日ついでに、時ウチやカフエーや  
にひもりな人が大さわぎして、

電とうがつかないで、ぼくもかけて出  
ておもてのが、いとうを見まゝ、

せう、はら明るいで、はら、そいで、あひ  
うに入りまゝ、はらでんきがつかない

からでんきのひもをひもひつはりま  
ゝ、はらつきまゝ。

浅沼 誠

下んき

ぼくは、はらがないので、なまねを  
まゝ、はら口の方をあけたので、なま  
まゝ、はら、やいなぎむら、といつたの  
であつた、とわらななむら、といひま  
した。

ぼく、はら、の村には六月の一日、つ  
まゝ、はら、うちはでんとうを一つ  
けまゝ。

下んきのこと

河野正夫

でんきは六月一日につきまゝ。

電とうは一つつけられ、はら、ま  
あかるくなるから、はいきです。

そしてでんどうはゆうがたの五  
時ぐらひにつきます。だからら  
んぶそうちをうなくともいひか  
ら電きはいいです。

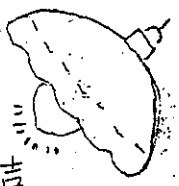
私はがらんデーです。諸田光子  
私がからんデーです。

きれいな手へかけをうさんもつ  
てなで一度に三百五十まいいづよう  
もかけます。

自青赤のせれはく／＼きれいなまへか  
けです。おもいから毎日一まいづつ  
はづします。

はづしても紙ですすらすあせんたくは  
できません。  
せれほどあつたまへかけも一年たつ  
と一まいものこりません。  
なんとばか／＼いこととせう。

### 尋四綴方



吉田亮二

父島にも六月一日から電気がつくようにな  
りました。電気がついた時みんなのうちで大  
さはぎでした。

はつ電所は海がんの方にあります。  
僕も此の間見に行きました。たくさんのきか  
い／＼うごいて電氣をおこしておました。これ  
だけのきかいで、大村中の家が明るくなると思  
ふと、きかいの力はえらいものだと思ひま  
しました。

家では八つつけました。メートルです。ガス  
ヤランプとちがつて手がかゝらないので、う  
ちの人はよろこんでゐます。  
電しんばしらにもつくのであるく時にも電持  
かよいです。

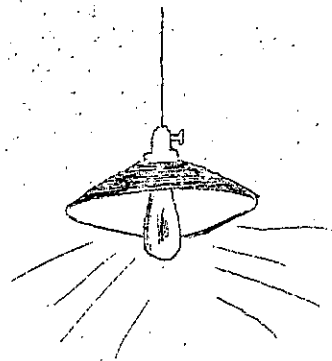
電氣のおかげで大村も大へん便利になりました。

でんき (尋三ぎ)

私はでんきがつくのがたのうら

でんきがついたのは六月の一日

でんきはらんぶとちがつてあか  
いからうる／＼くてたまりません  
らんぶはくらしいからいやです。お  
あかるいでんとりの下でうんと  
んきやうをい／＼とおもひます。



和田清

六月一日に電気がつきました。

僕の家にもつきました。妹は今日はお正月と  
いつてとびまはりました。

僕はなんとあかるいんだらうといつて目をほり  
くりさせました。お母さんは妹にはじめて見た  
らうといふと、妹ははづかしさうにくびをふり  
ました。町はこのあひだとちがつてにぎやかで  
した。おほせいの子どもがさはぎまはつていま  
す。僕はうれしいなあといとりとをいひ  
ました。

つねいちさんのでんしんばしらにもつきました。  
なんとにぎやかでせう。

野口晃

僕は電氣のつく前に、電氣はどんなにあかるい  
だらうと思つてゐました。

すると六月一日の夜、飯をたべてゐると、さか  
にはつとつきました。僕はびつくりして、さか  
お、電氣がついた。といつてよろこびまし

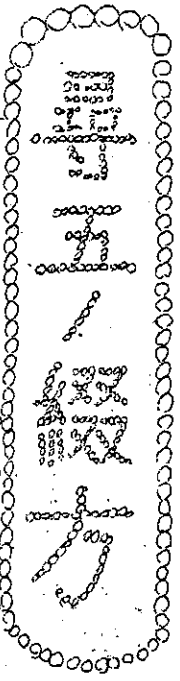
た。家の電気は五つつきました。飯をたべ  
る所が十しよく、さしきが二十四しよく、べ  
んきやうするへやが十六しよく、げんくわん  
が二しよく、べんじよが二しよくです。  
電気は明るいので、すみぐく、までひかつ  
て、とても氣もちがよい。  
僕は時々、スヰツチをいたづらします。  
べんじよに行つて出て来る時にも、光らせた  
り、とめたりしていたづらします。  
そとへで私は電気だらけて、とてもきもち  
がよいです。町にはたいがい軒の下に大き  
いのがついておます。町のはたいがい二十  
四しよくだと思ひます。  
僕がゆふべ、繁小君としよだうからかへつて  
くるとき、はんやは二十四しよくでした。

奥山登喜子

私の家では電氣を一つつけました。  
私は電氣のおまをつける時もううれしく  
て、たまりませんでした。

ねえちやんはまだ電氣のついたのを見たこと  
がありません。六月一日の日かりつくとみんな  
がいつておました。  
私は夕方、本をよんでおますと、きふにあか  
るくなつたので見ると電燈がついておました。  
うちの人は電燈をけして、こんどはランプ  
をつけてどつちかあかるといふかをしておました。  
そしてこんどは又電燈をつけてみて、ほ  
んたうに電燈の方が明るいといひまし  
た。  
私の家では十六しよくです。  
電燈は家のすみぐく、までつけられます。  
電しんはしらにもつきましたので、大それ  
た、大それた、大それた、大それた、大それた、  
電燈はスヰツチをひねればつきますの  
で大へん便利です。

をはり



父島の虫

児玉成美

父島にも殺々と夏が来ます。夏になると父島に  
虫がふえて来ます。そのむしをこらすにはどう  
したらよいでせう。お百姓さん達はどんなにつ  
らいでせう。トマトも東京に出せば澤山なお金  
がもうかるのにこの虫のために大損をします。  
さうすると此の村はだんだんピンボウになつ  
て行きます。さうすると私達も野菜が食べられ  
なくなります。このむしはどこからふえて来た  
のでせう。そのため小学校でもこの虫をこらす  
ためにタマナハの實を一タン十五銭で買ひさう  
です。だから皆さんタマナハの實を澤山集めて虫  
をこらしお百姓さんたちにも野菜をつくらせ  
みんな一生懸命働こうではありませんか。

手紙

石津若子

千代ねいちゃんごぶさた教しました。  
殺々暑くなりましたね。東京の方も暑くなつたで  
せう。大村では六月一日から電氣がつくようにな  
りました。そのお祝にお芝居があります。私のおお  
達の又子さんがおどります。とく子ちゃんには  
めてしけんをされた事とさ八点をとりました。  
私も又子さんにまけないように勉強します。千代  
ねいちゃんもしつかり勉強して下さい。此の間  
えんがはに腰かけておたらふと千代ねいちゃん  
の事を思ひ出し悲しくなりました。それは千代ね  
いちゃんはまだ東京に行かない時に、一人で風防  
林に行つてどもちやんの乳母車に私を入れて落  
しましたね。あんな面白い事が出来なくなつたの  
が悲しいのです。小笠原もだんだん便利になりま  
した。はとばもすつかりかわりました。前の波止場  
をこはして廣くしました。私の家の前も今工事な  
してをります。では御身を御大切に、サヨナラ  
あつくなるにつれて、  
沖山若子  
だんだん暑くなるにつれて草も木もみどり色に

なつて来ました。草や木がみどり色になるにつれて暑くもなりました。又水屋が水あらしに出来た。人々は暑い暑いといつて氷を飲みに行きますが又暑いといつて海へ出て遊ぶ人も居ます。さういふやうにあつくなるにつれていろいろ事があつて来て勉強するのもしやになつて来ましたが此で又夏には夏休みといつて夏の間だけお休みになります。ですから私は夏休みがたのしみです。

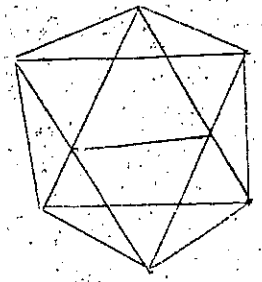
昨夜

西村静江

昨夜私は床へ入つてからどうしても眠れなかつた。寝ようと思ひながら、いろいろな事を思ひだす。何も考へなければねられるかと思つて何も考へまいとする。尚又いろいろな事が思ひ出される。ラヂオ体操の事など、次から次と目に見えるやうに考へ出される。あまり眠れないので妹の方を見ると、オヤ／＼と氣持よさうに眠つてゐる。又兄を見るとグウ／＼いびきをかいて寝てゐるので私はうらやましく

たまになつた。天井をのぞくと見つめてゐると、晝間の事が思ひ出されて眠れない。足もとの方へ行つて見たら、まくらもとへ行つて見たりしてゐるうちに美代子がうーんと言つて手をのぼした。でびつくりして又もとの所へ寝た。あまりおむねないので何だかこはくなくなつて美代子にかちりつげよう。澤山のけものにとりかこまれた時はどうしようなどと考へてゐるうちに時計が九時をつた。いつとも八時にねるのに今日は九時になつてもねむれないと考へてゐたがいつとなく眠つてしまつた。

上の図の中に三角が幾つありますか。



尋六の作文

綴方

森下やす子

私は小さい時から綴方が下手でした。人が上手にかくのを見ると、私も上手になり度いと思ひます。がなが／＼上手になれませぬ。綴方の時間は何か書こうと考へても考へまじやうないと思ひあきてしまつて、外の事をかこうとする。くせがついてしまひました。それでも本をよんだりお話をきくのは好きです。みんなが上手にかいたものを先生によんでもらうと、その時は私もあけなうに上手に書こうと思ふがどうしてもかになり度いと思ひます。

電氣

大沼茂子

六月一日から電氣がついた。その晩のことである。活動しやしくがある。でせうと人をまつて

家を出かけやうとする。奥の方で弟が電氣がついた電氣がついたと大喜びで家中をどびどびして居る。私ははつと立ち上がり、おむねがうしくなつて家のかげ上つて見ると家はすみからすみまで明るかつた。私は母に向つてお母さん、今晩はうちでこれくらいあるやうだ。お母さんは笑つて、まづたぐねた。いつて台所に行つた。私はあまりのうれしさに活動に行くのを忘れてしまつた。それで學校に行つた時は活動はもうはじまつて居た。

人の顔

和田とみ子

考へて見ると人の顔は面白いものである。人の顔がみなおなじなうた。さうするたらうと私は時々思ふ。顔は一つとして同じものはない。それか、笑ふ時の顔、怒つた時の顔、泣いた時の顔、その中が一番おもしろいのは泣いた時の顔だ。人の悪い口をいふのはよいが、一体私の顔はどんななう。目白のくそで顔をこすると顔がきれいになる。さういふ人があつたら私は考へただけでもきもちがわるくなる。

夏の夕べ

磯崎秀子

昨夜の事であつた。夕飯を終へて奥の間に行き、

くやつてよく人間の役に立つやうに在らなければいけぬ。そしてお前たちはたくさんいえて且本の水産業をもつとさかんにさせるのがお前達のやくめだぞ。

人間の命

小松壽太郎

がたがたえきれない程かゞやいて居る。風はすうすうと涼しく私のからだにあたる。前の氷屋ではちくおんぎをせきりにかけて居る。それをききながら又勉強にかゝつたが今度はなるとな

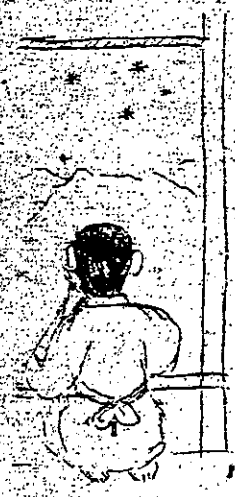
人間の命はいつなくなるか分らないけれども死ぬれば何も分らないで地中やねむつて居るのだ。生きて居ればかたじけなく時またのしい時もある。どうして死ぬやうになつたのだらう。それはまだ僕には分らない。死ぬは自分の友だちにもあへないし、又親にもあへなくなるのだ。あゝ死ぬ人は此の世を後にして天国へ行くのだ。我々は死人をたつと

おい 眞君

高松晴男

さかなはいつ命を取られるか分らない。魚も考へて見ればかあいさうだなあ。けれどもさかな

てやうやうではないか。死人よきまぢよくねむれ。又天国で會はうよ。



のだからしかたがない。お前たちはよく人間のためになつて感心だ。しかしお前たちははくたいた人間を食ふさかなになつてはいけぬ。そして小さい内はえさをたくさん食べてでか

高一 潜水夫

高崎喜久雄

潜水夫は水の中で仕事をするので、此の丸村にもはじめに潜水夫の人が来て、波止場の所でぐつておます。聞けば、中は、にこつて見えないので、うまく、とうふを一部も、まぢがはないで入れるのだから、よほど、しっかりとおる人でなければだめだ。と言つておました。朝は五時頃から起きて飯を食べ、私が起きる頃には、もう、がたん、がたん、と朝の静けさを、やがて音をとたて、聞えて来る。ああ、もう仕事が始まつているなあ、とすぐわかりました。

朝の教室

奥山サキ子

學校が、おそいと、あわてゝ家を、とび出した。郵便局の時計を見ると、七時五分前であつた。教室を見ると、男生徒が、二、三、人、庭、そうじをして居る。それでも教室へ行つて見ようと、思つて門を、くぐり、湯飲所の所まで、くると、役場の小使さんが、火をおこしておました。私たちの教室へ入つて見ると、誰一人来ておない。あささあけて、道具をしまった。教室は妙に、しーんとして、がた、といふ机の、あけたての音ばかりが、さばがらかった。あまり早く来すぎた私は心の中で、そう思ふながら後を、ふり返つて見たが、誰一人来ない。机の中を、ぞうぢして庭に出た。教室は、きれいに、そうぢされて居る。ほんやり立って、あちこち見まわしておると、八重ちゃん達が、多人数を、ならべて、やつてくる。私は八重ちゃんといつて、そばに、かけよつた。

浅沼鉄夫

浅沼鉄夫



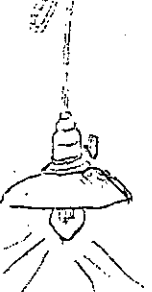
我が大村は太平洋の中腰にある。此所は、さだよりといふ人が、みつけたのである。そして小笠原は扇村と大村と、ふたつにわかれてゐる。さだよりは扇村の方に入り、それから、たん

大村がからけたのである。だから夏になると、さだよりは祭といふ祭がある。その時は非常な面白い、小笠原さだよりといふ。だから此所を小笠原島とつけたのである。此の小笠原も今ではたいへん、ひらけてゐる。そして今では三千人といふ人口があつて、電信所も出来て、さだの農場も出来てゐる。此の小笠原も、どんなやくにたつてゐるか、わからない。

### 親孝行

奥山留枝

親孝行は日本の國民にとつて一番大切な事である。私達は金曜日、修身の時間に校長先生から親孝行のいろ、の話を聞きました。電燈會社の社長、堤林さんも親を喜ばせようと、思つて一生懸命事業に、ほげんだので、一ひに、あんな大金持ちとなられ、小笠原の爲に、おしくして下さることが出来た。だと思ひます。此の堤林さんが成功なされたのは親孝行の一念が其の原因だと思ひます。だから私も一生懸命に勉強して親を喜ばせ、堤林さんのように成功して此の島の爲めにつくしたいものだと思ひます。



## 高二乃綴方

エディソン

横山 培

テニス

奇藤 留

二十世紀の世の中となつても電灯のない我が村のさびしさ、今年は電灯がつく、果ては電灯がつく、さう言ひつて来てからもう四年も経つたらう。五月一日からやつとつくりやうになつた、此のうしろには村中に満ちた。

思へばエディソンが研究に研究を重ねて終にカーボン線電球を發明して、いよいよ電灯となつた時町中の人々、みんながアス球が光るだらう、と皆不思議に思つて見てゐた事であらう、かく大きく口をあき目をキラせて居たであらう。

エディソンの手にしたスリッパ一つの力に上りたあ、まじ電灯は、ハツとついた、人々は其の明を、そして其の不思議な球を驚きの眼で見つめて、いたにやがて、あゝ其の時の喜びを合初めて此の大村では感じたりである。

よく晴れた日の午後、ボールとボールを打つ音が聞へる。それは学校のテニスコートから起つたのだ。ツクリスリ、危い、一方が打つ音が打ち返へす、白い、赤い、土で固めたコート、誰を見てか、一生懸命に動いて居る、見てゐる、さうも気が持たない。ましてラケットを振つてゐる人々、はげしく、愉快な、さう、球が飛べば、身体が動く、身体が動けば、球が飛ぶ、勝負、何時終るのか、白い、シヤツも汗で、ビツビツになりなつてゐる。

人生

津山 鉄雄

我々の一生は何時終るか、わからぬ、昔から、人生は五十年、と言はれ、居るが、今日では、もう、人生は四十年、とまで言はれてゐる位である、此の頃、我が國の勤功のあつた人々が多敷い、此の頃、此の頃、上原元郎、山本



海軍大將、武蔵元帥、又近くは國軍東郷元帥  
 等である。此等の人は皆あの日本の戦後  
 に大功のあった海軍である。我々の友人も  
 此の間二人死んだ。我々は此の死んだ二人の  
 の後をついて此の光輝ある日本帝國を益々繁  
 榮させなければならぬ。

海の夕 菊池初枝

せめては打つ。海上は明るく向ふの山、鳥浦は  
 成りつとした色にとけ合つて且水やりしてゐる  
 浜辺に上つてゐる舟も頭をもたげてお交達の海  
 までかめてゐる。  
 美しい海だ、青い海だ、海村のう見ても美しい。  
 大船は海に見送られながら暗い道へと帰った。

水 興山貞美

一旦ももうずんと西へと傾いた日暮中に夏  
 の天國で遊ぶ満るばかりの緑葉茂れる風防林  
 へと足を運んだ。  
 夕まは焼く煙の中に蒼白き海面が何のかに浮  
 き上つてゐるやうに見える。水の中に脚を  
 下していつ見てもゆたかな笑ひ。海辺の道を飛  
 ぬかす。今日一日を及ぼして水の中を流  
 したのを思つて目を上げると、水が一面を  
 リしたやうな大きな雲がたんと人、大きく大  
 空のクモの糸のやうに美しい。  
 海ほどす思ふ鱗形の波が、打つては寄せ、寄

水は普通は液体である。しかし熱を受けると気  
 体になり水蒸気にもなり又冷えて固体の氷も生  
 る。もし此の世の中に水がなかつたらどう  
 であらう地球は全部陸地となる。水は先づこ  
 事として吾々人間は勿論のこと動植物は生存す  
 ることが出来ない。水程水は生物にとつては  
 大切なものである。世界の文化は日月と共進  
 んで水の利用も益々盛んとなつた。発電に或は蒸気機  
 関に交通上工業上は重要である。氷は氷で出病  
 人にも用ひられ物力貯蔵にはなくてはならぬ。  
 のとなつた。

専女綴方

この頃 一年 泳海 愛子  
 この頃めつきり暑くなつた。今年は今迄  
 大暑涼しかったので、この五六日暑いと  
 とて暑いやうに思はれます。稍を渡つ  
 て吹いて来る風もなまぬかしくかです汗  
 をかいてゐる顔におたるとすうと涼し  
 く救けられたやうな気がします。いかうこ  
 の頃のやうに暑いと何事にも一心にむれ  
 ず、裁縫も涼しかった時のやうにはかど  
 りず、一日だらだらとして過してしまふ  
 こともありません。けれども夜になつてよ  
 ほど涼しくなるので晝間出来なかつた仕  
 事も出来ら、虫の鳴く音を聞きながら裁  
 縫をするとも気が持たず出来ぬ。  
 暑く時は早く涼しくなればよいと思ひ  
 寒い時は早く暑くなればよいと思ふ。人  
 間は勝手なものです。

或る日の妹 一年 菊池ヒサ子

「姉ちゃん泳いでおいでかい。」  
 と小さい妹はまた許しもきかぬうらからもう汗  
 服をぬいで真黒な身体をして今にも飛び出さう  
 にしてゐる。  
 「明日注射をするんだから泳いぢやないけな。も  
 っと暑くなるつから泳ぐんたよ。」  
 と言ひながら私は雑巾のすゝぎ水を度々に撒いてね  
 る。今ねまの妹はそこをねない。泳ぎにいつた  
 かねえと思つて表の方を見ると妹はこらを向い  
 て舌をペロリと出してキヤツキヤツと笑ひながら  
 あいかへりふりかへり海岸の方へかけて行つて  
 ました。そのかくがりがあまりにおかしくなつたの  
 で私は思はずき笑まらずには居られなくなつた。

夏が来た 二年 藤境キミ子

あ、夏が来た。あつたあつた夏が来た。  
 私は夏といふとなごむとなく気がおのさんて来ます。  
 右い海でボキヤ頭を打べたから愉快さうに泳ぎ

まわつ子供等、一わも頭上にはかんかん  
と目が照つてゐる。その目をまぶしながら  
私は涼しい新ばかり選んで縫物ばかり  
して今までの夏は通して来ましたが、この  
夏こそ海や山に行き、一生懸命に運動して  
身体を鍛へたいと思つてゐます。

雨の日を歩く人もおきぬかゝるみど、木々の  
してゆかべさみく。  
雨あがり小川の氷のさらさらと、涼涼と木  
道行く。

一〇 二年 浅沼一子

夏が参りました。暑い夏が参りました。  
子供等は泳ぎに行くやうになつて遊ば  
かになりました。  
夏は勉強するにも勉強にも一番つらい時  
です。でももつともつと暑いと聞くと満洲  
に働く兵隊さん達のことを思ふ時、私達は  
勉強は何でもなすぞです。ごすからしく  
ら暑くても暑くてもいかにあつても生懸  
命に勉強しなつて、夏の夏は愉快に過  
ませう。

アテラギ五月節  
くれにもお空に雨雲ひちがりてうこん櫻の  
花のさびしく  
周 菫  
ゆふぐれの光のこりて羊齒もゆるわが庭の  
上に一まゝおちたつ  
斎藤 茂吉  
川の瀬は夜まもひびけり明時のしらじらと  
してひびきけるか  
土屋 文明  
つぎつぎにみちすべり下りて人がげなき、  
わがねをにらぐがなる山  
結城 衣草

寄贈御礼

- 一金参幣四拾参銭也 益田修全エカ子さんから一般會計へ。
- 一金拾幣也 石橋滝三郎氏より保護者會となしてこへ。
- 一金拾幣也 佐末新之丞氏より息患二君の香奠返礼代へ  
備品購入費として。
- 一金貳拾幣也 河野直吉代より香奠返礼として保護者會基金へ。

學校日記

- 五月二十七日 海軍記念日祝賀の為校庭で電信所並に陸の運動會が盛大  
に行はれました。
- 六月五日 故元帥海軍大将東郷平八郎閣下の國葬にて臨時休業す。
- 六月十二日 簡開真等並に青訓査閲の為臨時休業致しました。
- 六月十九日 予フスリ豫防注射を行ひました。

大村尋常小学校  
編輯部

147号

昭和九年六月

1934年6月